

＜小満＞暦（24 節季、節気）の上では 5 月半ばから 6 月始めは“立夏”から“小満(しょうまん)”、「陽気が良くなっているのちが満ち始める」頃です。ただ前号でも触れましたが夏に向かっての足取りは速いですね。

「蚊の声す忍冬(にんどう)の花散るたびに(蕪村)」とあるように“スイカズラ(別名：忍冬)”はこれからが盛りのはずでしたが半月ほど早く咲きだしもう散り終えそうです。それはさておき、佳い香りを漂わせて金銀色に咲



＜スイカズラ＞



＜ヤマアジサイ＞

くスイカズラの花はネムに先立ち人を惹きつけます。”Lonicera japonica”、日本原産の植物です。一方、“ヤマアジサイ”は今が盛りで青に白が目立ちます。咲く花の傍(かたわ)らに透けて残っているドライフラワーも好いですね。およそ 1 年前には青が綺麗だったものでしょう(No.41 参照)。ノイバラの香り、そしてその白い花に惹かれてやってくる小さな“ヒメアカハナカミキリ”、「いのちの満ちる」感がします。

＜ノイバラとヒメアカハナカミキリ＞ →



＜丹念に＞青々とした葉を茂らせている“カワヅザクラ”の葉蔭に径が 5 mm 強のサクランボを見つけました。食用でないものにしては大きめです。花を咲かせていたのが 2 月中旬ですから他のサクラに比べ随分日時を掛けて丹念に稔らせたようです。“丹念に”といえは蜂たちの巣作りがそうですね。写真の“キアシナガバチ”は小さな巣



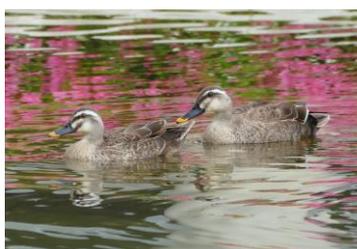
を作り生んだ卵が幼虫、蛹そして働き蜂に育つまで女王だけで世話と巣作りをします。 <キアシナガバチ> →



＜幾何学模様＞殆どのハチの子育ての部屋はハニカム(honeycomb)と云われる六角柱の集まった幾何学模様をしています。もっと複雑な幾何学模様がクモの巣でしょうか。写真は“チュウガタコガネグモ”の巣です。X 字型の白い“隠れ帯”を設(しつ)らえて垂直に張られた網はおおよそ 24 角形、「暇なこと!」と思われるでしょうが数えると 60 角形以上のものもありまさに円です。円網と云われる所以でしょう。中心には目立つ模様の♀が 2 本ずつ脚を揃えて獲物を待っています。よく見ると♀(体長 ca 20 mm)の少し上方に小さな♂(ca 5mm)がいます。



＜チュウガタコガネグモ♀と♂＞



＜小さな可能性＞この時期に心待ちするものの筆頭は何と言ってもゲンジボタル。今年は例年よりやや早くビオトープに姿を現し舞っています。ツバメの巣作りもそうですが、この 3 年ほど急に減りました。可能性はもっとぐんと小さいのですが、カルガモが雛をつれて噴水池にやってこないかなと――、まずはカップルが姿を見せました。

(文と写真： 松本正勝)